

英語教育をイノベーションする
スーパー・ティーチャー養成モデルの構築
ーカナダ・ビクトリア大学におけるハイブリッド型TEFL研修を含む英語プログラムー

調査の概要

◆課題認識

- 日本人の英語力向上に向けた英語教育改革に目立った成果が見られない
- 英語教員の英語力および英語教授スキルの不足が根本原因では？

◆調査研究の目的

高度な英語運用能力と言語習得・教育理論に裏打ちされた英語指導力を備えた教員の養成のためのハイブリッド海外研修開発とそのカリキュラム化

◆研修先

- カナダ・ビクトリア大学
- 2012年の協定締結以降、本学学部学生へのESLプログラム、および現職教員向けTEFL研修を提供

◆研修の内容

- 7週間のオンライン研修（指導法研修）
- 4週間のカナダでの英語研修
- 1週間のカナダでの指導法集中研修

→ 令和5年12月から令和6年3月にかけて実施

取組のポイント・成果

- ◆主な取組のポイント
- ギャップタームの活用
必修科目のないタームの研修のため、集中的な取り組みが可能
 - 教員養成専門科目としての位置付け
令和5年度から専攻専門科目「第二言語習得論」としてカリキュラム化
 - 客観指標に基づくフィードバック
外部英語試験や模擬授業等の事前／事後比較を通して、英語教師としての成長に必要なフィードバックを提供

- ◆成果
- 令和5年12月から令和6年3月にかけて実施した7週間のオンライン＋5週間のカナダでの研修から構成される研修を開発・実施して、本学の学生6名と北海道教育大学の学生1名、計7名が参加することとなった。
 - 参加7名全員が研修を完遂し、Certificate of Completion in Advanced Skills in Teaching English as a Foreign Languageを授与された。
 - 教師の言葉・指導・生徒対応の観点から研修前後の模擬授業を比較したところ、主に生徒を意識した話し方への改善や、生徒とのインタラクションの増加、動機づけの観点のさらなる取り入れが見られ、参加者の授業の質の向上が確認された。
 - 異文化理解・多文化共生力BEVI-jの結果の研修前後の比較から、参加者の国際性や多様性への対応などの高まりが見られた。



今後の課題

- 本学で一定の成果を残したこの研修を他機関に展開していくことによって、日本全体の英語教育の高度化に貢献する。
- 持続可能な取り組みとしていくための内容の再検証、運営面でのスリム化などをはかっていく必要がある。

※本内容は文部科学省においてWebサイト等で公表することがある。